

近畿圏広域地方計画 (関西広域地方計画)

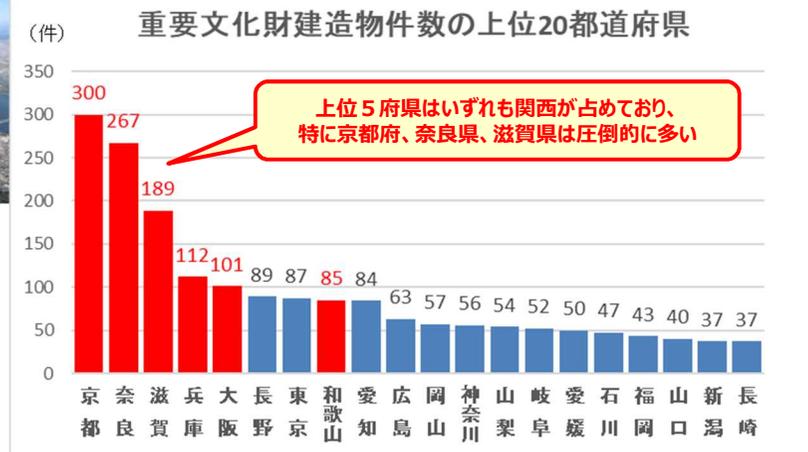
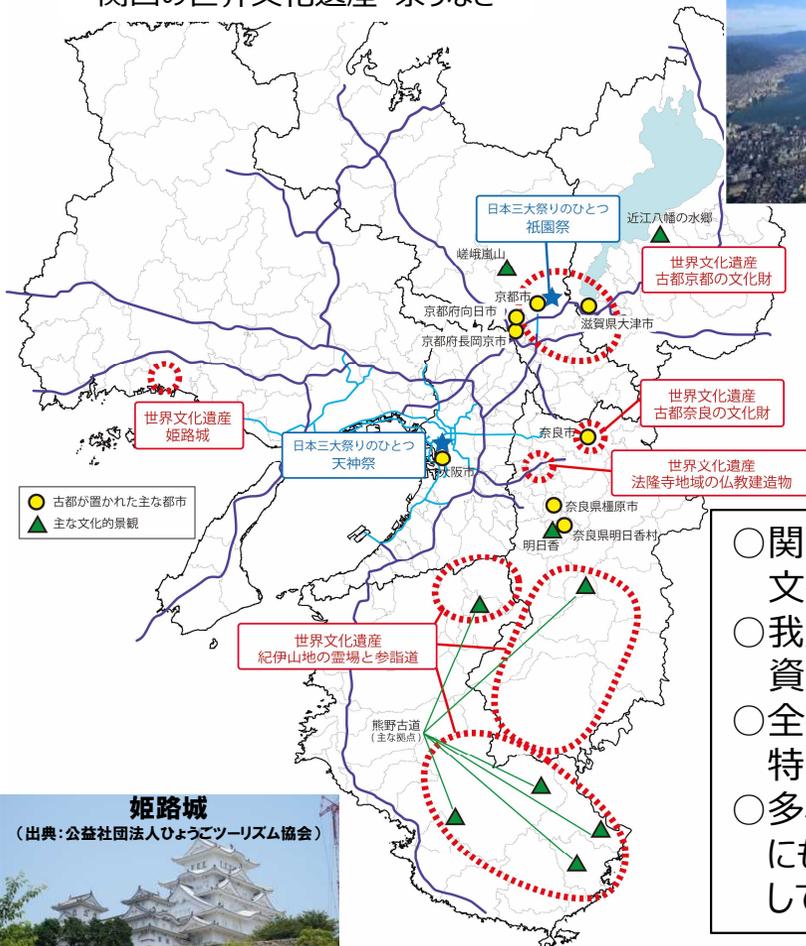
中間とりまとめ概要(案)
令和5年11月8日時点

■ 地域構造と特徴・強み	P 2
■ 現状と課題	P 3～5
■ 将来像と目標、キーコンセプト	P 6～7
■ 計画の構成・体系図	P 8～12
■ 圏域の将来像とその実現に向けた目標	P 13～18
■ 各広域連携プロジェクト	
(1) 日本回廊ネットワークプロジェクト	P 19
(2) 関西交通ネットワークプロジェクト	P 20
(3) 関西成長エンジンプロジェクト	P 21～22
(4) 都市の魅力向上プロジェクト	P 23
(5) 地域活性化プロジェクト	P 24～25
(6) 関西強靱化・防災連携プロジェクト	P 26～28
(7) GXプロジェクト	P 29～30
(8) みどり共生プロジェクト	P 31～33
(9) 世界を魅了する関西プロジェクト	P 34～35
■ 計画の推進等	P 36

関西の地域構造と特徴・強み

- 関西は海、山、川などの自然環境に恵まれ、琵琶湖の豊富な水資源の恩恵を享受。
- 京都、大阪、神戸の3大都市とその周辺都市を中心とした地域に人口の約8割が集中。

関西の世界文化遺産・祭りなど



- 関西は古来より各所に都が置かれた歴史があり、長い年月をかけて多様な文化を創造・継承・蓄積。
- 我が国の世界文化遺産20件のうち6件を有するなど、豊富な歴史・文化資産が集積。
- 全国の国宝の5割以上、重要文化財の5割近くが関西に集積しており、特に重要文化財建造物は圧倒的に多い。
- 多様で厚みのある歴史・文化は、ものづくり、祭事、芸能、まちなみ、景観等にも活かされ、人々の営みや地域社会そのものが高品質の地域資源を形成している。

関西を取り巻く現状と課題(経済規模と産業構造)

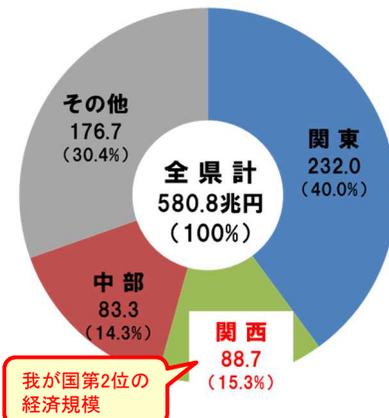
- 関西は、人口約2,040万、域内総生産額（GRP）89兆円の経済規模を有する我が国第二の経済圏。
- 関西の産業構造（GRPベース）は、第3次産業が73%、第2次産業が27%、第1次産業は1%未満。
- 関西の経済成長は、関東、中部はよりも鈍く、関東との経済規模の較差は拡大傾向。

■ 関西の対全国シェア

	関西	日本	シェア
面積 (km ²)【2023年】	27,351	377,974	7.2%
人口 (千人)【2021年】	20,439	125,502	16.3%
域内総生産(兆円)【2019年】	89	581	15.3%

資料：国土地理院「令和5年全国都道府県市町村別面積調」、
総務省統計局「人口推計」(2021年)、内閣府「県民経済計算年報」
(注)日本の域内総生産額は47都道府県の域内総生産額の合計値

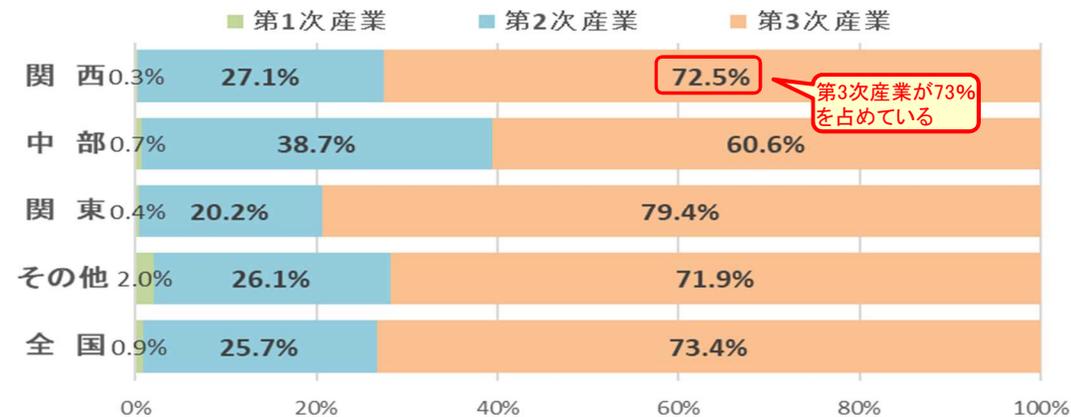
■ 地域別の域内総生産(2019年)



資料：内閣府「県民経済計算年報」

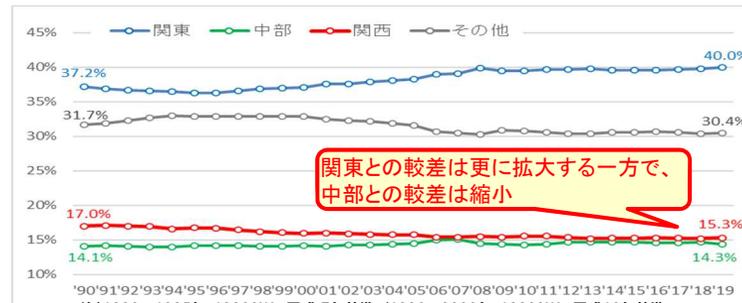
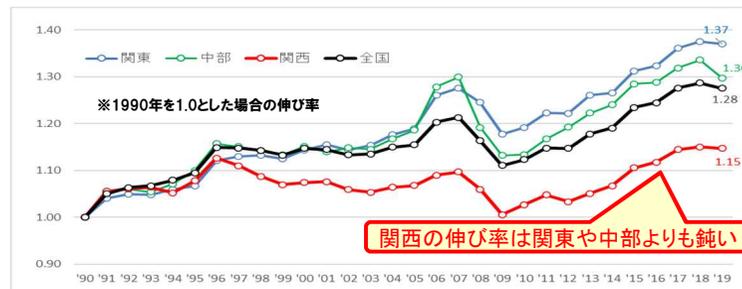
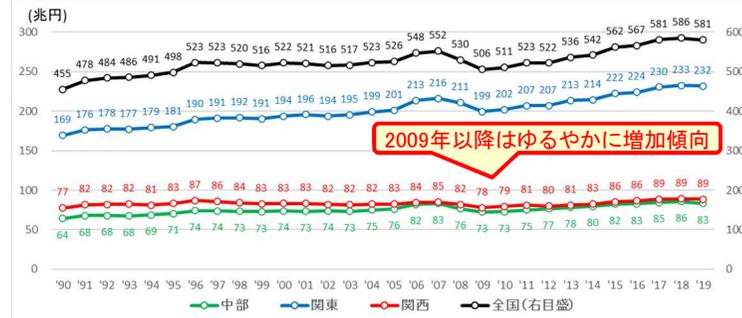
関西：滋賀県、京都府、大阪府、兵庫県、奈良県、和歌山県
関東：茨城県、栃木県、群馬県、埼玉県、千葉県、東京都、神奈川県、山梨県
中部：長野県、岐阜県、静岡県、愛知県、三重県

■ 産業構造の構成比(2019年:GRPベース)



資料：内閣府「県民経済計算年報」(2019年度域内総生産(名目)より算出)

■ 域内総生産(上段：総額、中段：伸び率、下段：対全国シェア)



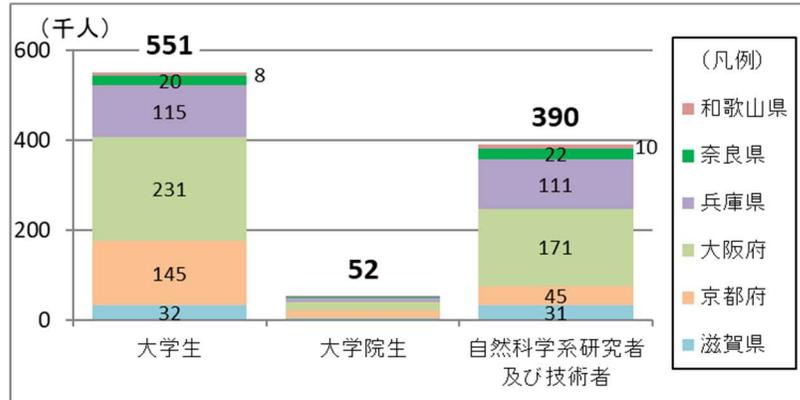
注)1990～1995年:1993SNA、平成7年基準/1996～2000年:1993SNA、平成12年基準
2001～2005年:1993SNA、平成17年基準 2006～2010年:2008SNA、平成23年基準、
2011～2019年:2008SNA、平成27年基準

資料：内閣府「県民経済計算年報」

関西を取り巻く現状と課題(最先端の技術力)

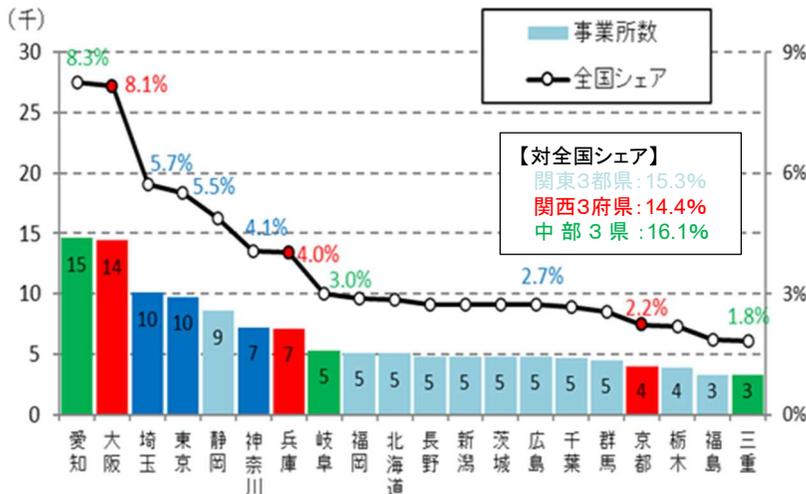
- 関西は、大学や研究開発拠点が集積し、ライフサイエンス分野をはじめとする最先端の研究開発が進展
- 製造業の事業所数は大阪府が全国2位。京都府、兵庫県を含めた3府県に全国の製造業事業所の14%が集積

■ 関西の大学生・大学院生数と自然科学系研究者及び技術者数



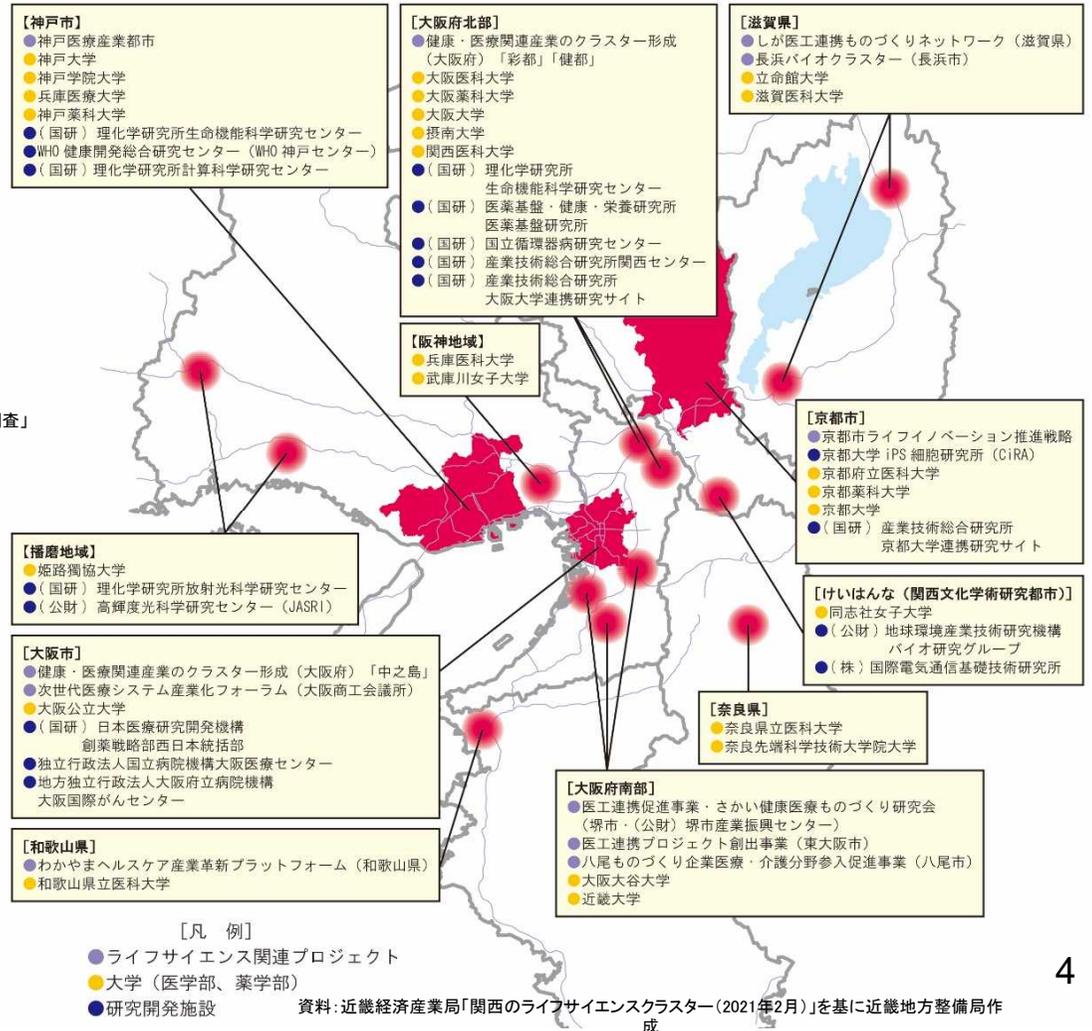
資料: 大学生・大学院生数は「令和4年度学校基本調査」自然科学系研究者及び技術者数は「令和2年国勢調査」

■ 製造業事業所数の上位20都道府県



資料: 総務省・経済産業省「令和3年経済センサス活動調査」

■ 関西のライフサイエンス分野の主な大学・研究機関(2022年)

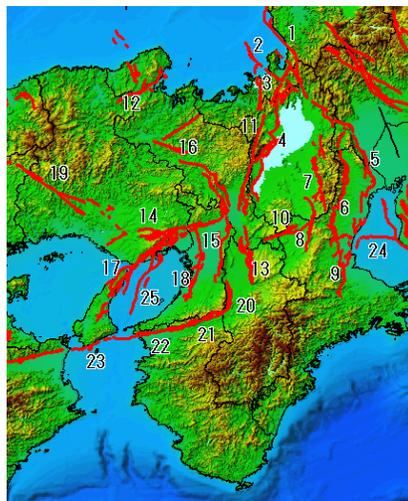


資料: 近畿経済産業局「関西のライフサイエンスクラスター(2021年2月)」を基に近畿地方整備局作成

関西を取り巻く現状と課題(自然災害のリスク)

○関西では1995年の兵庫県南部地震（阪神・淡路大震災）や2018年の大阪府北部の地震等の大規模地震が発生し、今後30年以内に70～80%程度の確率で南海トラフ地震の発生が危惧されている

内陸の活断層と想定される地震規模



番号	地震	マグニチュード
1	柳ヶ瀬・関ヶ原断層帯	6.6～7.6程度
2	野坂・集福寺断層帯	6.5～7.3程度
3	湖北山地断層帯	6.8～7.2程度
4	琵琶湖西岸断層帯	7.1～7.5程度
5	養老-桑名-四日市断層帯	8.0程度
6	鈴鹿東縁断層帯	7.5程度
7	鈴鹿西縁断層帯	7.6程度
8	頓宮断層	7.3程度
9	布引山地東縁断層帯	7.4～7.6程度
10	木津川断層帯	7.3程度
11	三方・花折断層帯	7.2～7.3程度
12	山田断層帯	7.4～程度
13	京都盆地-奈良盆地断層帯南部 (奈良盆地東縁断層帯)	7.4程度
14	有馬-高槻断層帯	7.5(±0.5)程度
15	生駒断層帯	7.0～7.5程度
16	三峠・京都西山断層帯	7.2～7.5程度
17	六甲・淡路島断層帯	6.6～7.9程度
18	上町断層帯	7.5程度
19	山崎断層帯	6.7～7.7程度
20～23	中央構造線断層帯	6.8～7.5程度
24	伊勢湾断層帯	6.9～7.2程度
25	大阪湾断層帯	7.5程度

関西で発生した主な地震

発生年	名称・発生箇所	規模	主な被害
1925	北但馬地震	M6.8 最大震度6	死者428人
1927	北丹後地震	M7.3 最大震度6	死者2,912人
1944	東南海地震	M7.9 最大震度6	死者・行方不明者1,183人
1946	南海地震	M8.0 最大震度5	死者・行方不明者1,443人
1995	兵庫県南部地震 (阪神・淡路大震災)	M7.3 最大震度7	死者・行方不明者6,437人
2004	東海道沖地震 (三重県南東沖)	M7.4 最大震度5弱	
2013	淡路島付近	M6.3 最大震度6弱	
2018	大阪府北部の地震	M6.1 最大震度6弱	死者6人

資料: 気象庁HPより作成

南海トラフで発生する地震

地震の規模	M8～M9クラス
地震発生確率	30年以内に70～80%
平均発生間隔	88.2年

資料: 地震調査研究推進本部資料

1995年1月 阪神・淡路大震災



出典: 近畿地方整備局

2018年6月 大阪府北部の地震



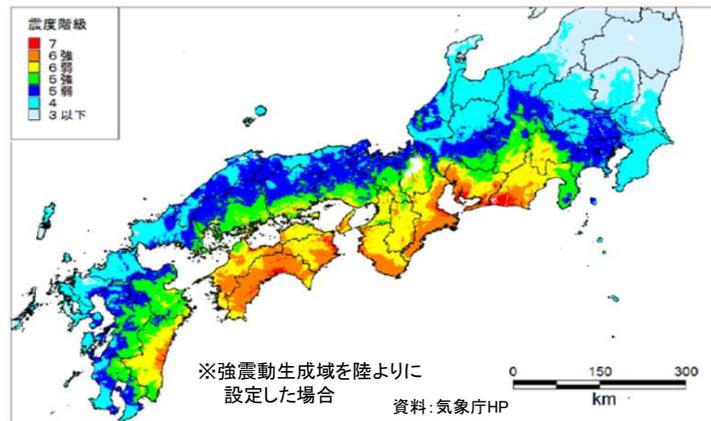
出典: 近畿地方整備局

2018.06.20 15:15

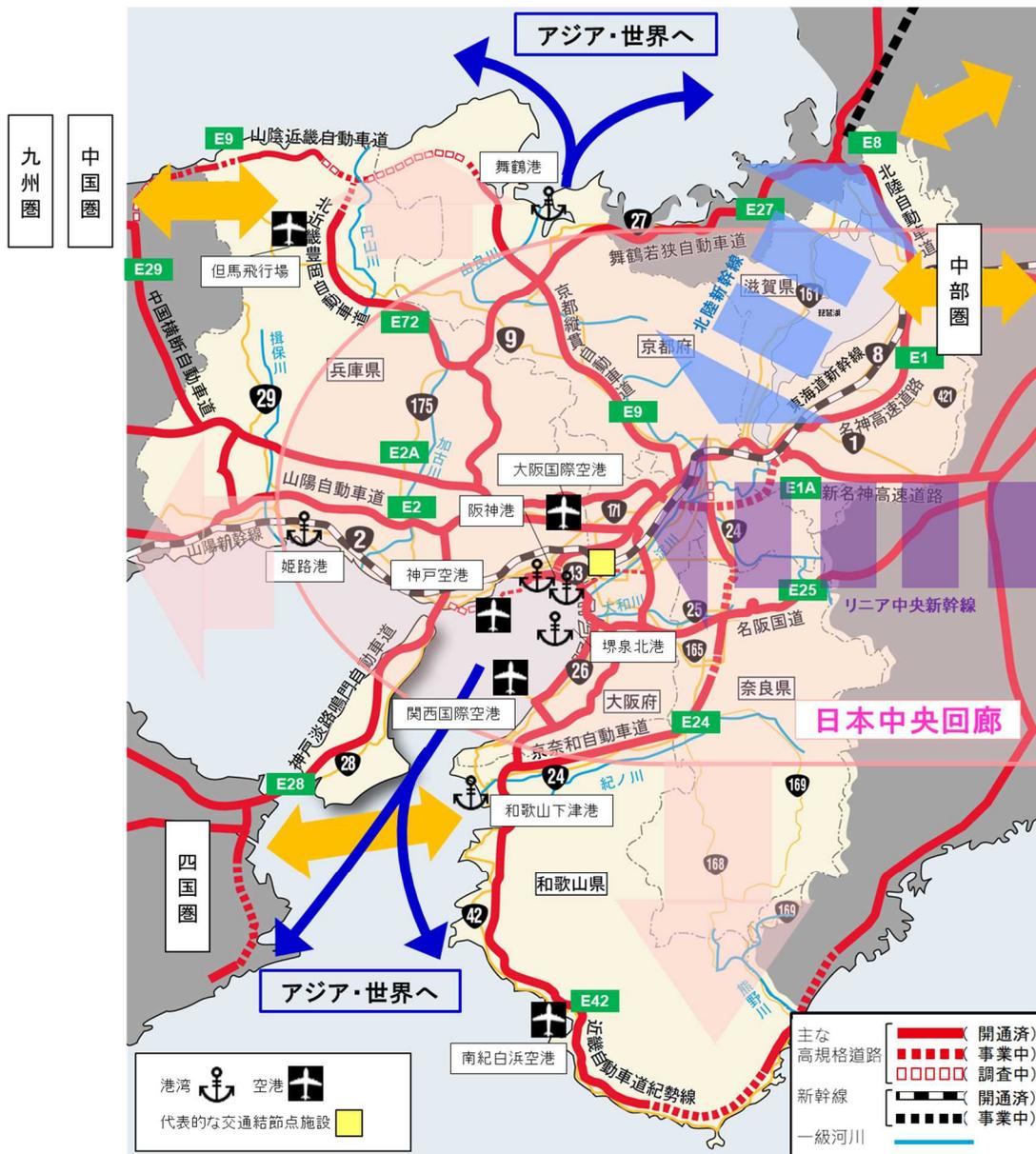


出典: 近畿地方整備局

南海トラフ巨大地震の深度分布



関西における将来像とその目標



関西の将来像(目指す姿)とその目標・戦略

1. 活力ある圏域づくり

- 日本中央回廊の西の拠点として我が国の成長を牽引する関西～挑戦し、成長する関西～
- 快適で豊かに暮らせる地域生活圏の形成を目指す関西～どこでも豊かに暮らせる関西～

2. 安全・安心な圏域づくり

- 巨大災害リスクに対して持続可能な国土・社会を目指す関西～災害に屈しない強靱な関西～
- 人と自然が共生する持続可能な関西～カーボンニュートラル・SDGsを実現する関西～

3. 個性豊かな圏域づくり

- 日本の歴史・伝統・文化が集積し、世界を魅了し続ける関西～多様な文化・自然の魅力がいっぱい関西～

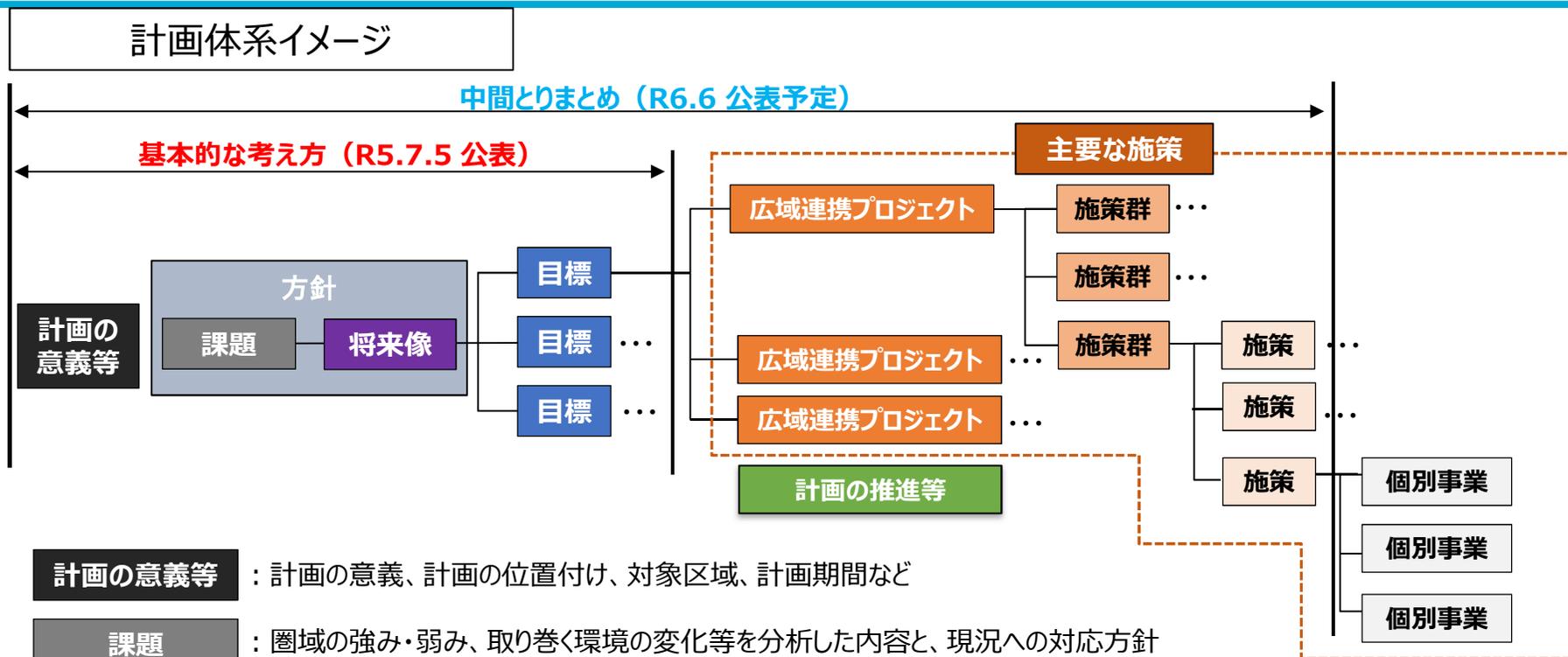
関西広域地方計画 キーコンセプト（基本目標）

これまでの計画 キーコンセプト(基本目標)一覧

	全国総合開発計画（一全総）	新全国総合開発計画（新全総）	第三次全国総合開発計画（三全総）	第四次全国総合開発計画（四全総）	21世紀の国土のグランドデザイン	国土形成計画（全国計画）	第二次国土形成計画（全国計画）	第三次国土形成計画（全国計画）
閣議決定	昭和37年10月5日 (1962年)	昭和44年5月30日 (1969年)	昭和52年11月4日 (1977年)	昭和62年6月30日 (1987年)	平成10年3月31日 (1998年)	平成20年7月4日 (2008年)	平成27年8月14日 (2015年)	令和5年7月28日 (2023年)
基本目標	地域間の均衡ある発展	豊かな環境の創造	人間居住の総合的環境の整備	多極分散型国土の構築	多軸型国土構造形成の基礎づくり	多様な広域ブロックが自立的に発展する国土を構築/美しく暮らしやすい国土の形成	対流促進型国土の形成	新時代に地域力をつなぐ国土～列島を支える新たな地域マネジメントの構築～
開発方式等	拠点開発方式 目標達成のため工業分散を図ることが必要であり、東京等の既成大集積と関連させつつ開発拠点を配置し、交通通信施設によりこれを有機的に連絡させ相互に影響させると同時に、周辺地域の特性を生かしながら連鎖反動的に開発をすすめる、地域間の均衡ある発展を実現する	大規模開発プロジェクト構想 新幹線、高速道路等のネットワークを整備し、大規模プロジェクトを推進することにより、国土利用の偏在を是正し、過密過疎、地域格差を解消する	定住構想 大都市への人口と産業の集中を抑制する一方、地方を振興し、過密過疎問題に対処しながら、全国土の利用の均衡を図りつつ人間居住の総合的環境の形成を図る	交流ネットワーク構想 多極分散型国土を構築するため、①地域の特性を生かしつつ、創意と工夫により地域整備を推進、②基幹的交通、情報・通信体系の整備を国自らあるいは国の先導的な指針に基づき全国にわたって推進、③多様な交流の機会を国、地方、民間諸団体の連携により形成	参加と連携 ～多様な主体の参加と地域連携による国土づくり～ (4つの戦略) 1 多自然居住地域(小都市、農山漁村、中山間地域等)の創造 2 大都市のリノベーション(大都市空間の修復、更新、有効活用) 3 地域連携軸(軸状に連なる地域連携のまとまり)の展開 4 広域国際交流圏(世界的な交流機能を有する圏域の設定)	(5つの戦略的目標) 1 東アジアとの交流・連携 2 持続可能な地域の形成 3 災害に強いしなやかな国土の形成 4 美しい国土の管理と継承 5 「新たな公」を基軸とする地域づくり	重層的かつ強靱な「コンパクトネットワーク」	シームレスな拠点連結型国土 1.デジタルとリアルが融合した地域生活圏の形成 2.持続可能な産業への構造転換 3.グリーン国土の創造 4.人口減少下の国土利用・管理 5.地域の安全・安心、暮らしや経済を支える国土基盤の高質化 6.地域を支える人材の確保・育成

	関西広域地方計画	第二次関西広域地方計画	新たな関西広域地方計画
大臣決定	平成21年8月4日 (2009年)	平成28年3月29日 (2016年)	令和7年度
基本目標	未来に向けて力強く躍動する圏域を実現	歴史とイノベーションによるアジアとの対流拠点	
開発方式等	1.歴史・文化に誇りを持って本物を産み育む圏域 2.多様な価値が集積する日本のもう一つの中心圏域 3.アジアを先導する世界に冠たる創造・交流圏域 4.人と自然が共生する持続可能な世界的環境先進圏域 5.都市と自然の魅力を日常的に享受できる圏域 6.人々が自律して快適で豊かに暮らせる高福祉圏域 7.暮らし・産業を守る災害に強い安全・安心圏域	1.アジアのゲートウェイを担い、我が国の成長エンジンとなる圏域 2.日本の歴史・伝統文化が集積し、世界を魅了し続ける圏域 3.快適で豊かに生き生きと暮らせる圏域 4.暮らし・産業を守る災害に強い安全・安心圏域 5.人と自然が共生する持続可能な世界的環境先進圏域	1.日本中央回廊の西の拠点として我が国の成長を牽引する関西～挑戦し、成長する関西～ 2.快適で豊かに暮らしを営む地域生活圏の形成を目指す関西～どこでも豊かに暮らせる関西～ 3.巨大災害リスクに対して持続可能な国土・社会を目指す関西～災害に屈しない強靱な関西～ 4.人と自然が共生する持続可能な関西～カーボンニュートラル・SDGsを実現する関西～ 5.日本の歴史・伝統・文化が集積し、世界を魅了し続ける関西～多様な文化・自然の魅力がいっぱい関西～

広域地方計画の構成



- 計画の意義等** : 計画の意義、計画の位置付け、対象区域、計画期間など
- 課題** : 圏域の強み・弱み、取り巻く環境の変化等を分析した内容と、現況への対応方針
- 将来像** : 課題を踏まえて目指す地域の概括的な方向性
- 目標** : 将来像で示された概括的な方向性を分野ごとに具体化した、計画を通じて目指すべき目標
- 主要な施策** : 「目標」を達成するために、広域の見地から行う必要がある主要な施策
- 広域連携プロジェクト** : 目標を達成するために必要な広域性、戦略性、総合性、実効性の全ての性質を備えたプロジェクト
- 施策群** **施策** : 広域連携プロジェクトを推進するための、より具体化された取組が施策、それらを小見出しでまとめたものが施策群
- 個別事業** : 各主体が行う施策を構成する最小単位の事業
- 計画の推進等** : 多様な主体の参画・協働、他圏域との連携、他計画・施策との連携、計画の進捗管理など、計画の推進に必要な事項

関西広域地方計画の計画体系図（素案）

関西の特徴・強み

- ▶歴史が深く息づき、個性的で多様な地域からなる関西
- ▶産業等の諸機能の集積が進んだ関西
- ▶最先端の技術力で我が国を牽引する関西

関西を取り巻く現状と課題

- ①本格的な人口減少社会の到来と急激な高齢化の進行
- ②関西の相対的地位の低下
- ③ポテンシャルを活かし切れていない京阪神大都市圏
- ④地方都市の活力低下と農山漁村の集落機能の低下
- ⑤関西を脅かす自然災害リスク

基本的な考え方（R5.7.5 公表）

将来像と目標

1. 活力ある圏域づくり

1-1

日本中央回廊の西の拠点として我が国の成長を牽引する関西
～挑戦し、成長する関西～

1-2

快適で豊かに暮らせる地域生活圏の形成を目指す関西
～どこでも豊かに暮らせる関西～

2. 安全・安心な圏域づくり

2-1

巨大災害リスクに対して持続可能な国土・社会を目指す関西
～災害に屈しない強靱な関西～

2-2

人と自然が共生する持続可能な関西
～カーボンニュートラル・SDGsを実現する関西～

3. 個性豊かな圏域づくり

3-1

日本の歴史・伝統・文化が集積し、世界を魅了し続ける関西
～多様な文化・自然の魅力がいっぱい関西～

広域連携プロジェクト

1 日本回廊ネットワークプロジェクト

2 関西交通ネットワークプロジェクト

3 関西成長エンジンプロジェクト

4 都市の魅力向上プロジェクト

5 地域活性化プロジェクト

6 関西強靱化・防災連携プロジェクト

7 GXプロジェクト

8 みどり共生プロジェクト

9 世界を魅了する関西プロジェクト

将来像と目標

広域連携プロジェクト

■施策群

1. 活力ある圏域づくり

1-1

日本中央回廊の西の拠点として
我が国の成長を牽引する関西
～挑戦し、成長する関西～

1 日本回廊ネットワーク
プロジェクト

○日本中央回廊の西の拠点として、アジアを中心に世界からヒト・モノ・カネ・情報を呼び込むゲートウェイとしての機能を強化する
○その効果を圏域内はもとより他圏域や地方経済へと波及・拡大させるため、陸海空の総合交通体系の高質化により、シームレスな拠点連結型国土を形成する

- 国際交通拠点の競争力強化
- 全国各地とアジアとの交流拡大
- シームレスな拠点連結型国土の骨格を支える国内幹線交通体系の高質化

2 関西交通ネットワーク
プロジェクト

○日本海・太平洋の2面活用や、瀬戸内海を介した西日本との連携を支える高規格道路・幹線鉄道・海上輸送等のネットワークの形成や機能を強化する
○地域の活性化や暮らしを支援する地域における交通体系を構築する

- シームレスな総合交通体系の形成(交通・物流ネットワークの強靱化)
- 地域交通体系の構築

3 関西成長エンジン
プロジェクト

○産官学の連携体制により、イノベーション創出の中心となる知的対流拠点の強化や、スタートアップ支援、多様な人材の確保・育成等により、将来の関西を牽引する産業や魅力ある新たな成長産業の形成を推進する
○デジタル技術等を活用した新たなモビリティの導入、農林水産業の成長産業化の促進等により、地域経済の活性化・稼ぐ力を向上する

- 大都市圏の国際競争力の強化
- GX・DXを始めとする産業の国際競争力の強化とイノベーションを支える環境整備、科学技術を支える基盤の強化と人材の育成
- 海外からの投資を呼び込む環境整備
- 食料等の安定供給と農林水産業の成長産業化
- デジタルを活用した新たなモビリティの充実
- デジタルインフラの整備・運用
- ICT・データ利活用の促進
- 情報通信社会の安全・安心の確保

将来像と目標

広域連携プロジェクト

■施策群

1. 活力ある圏域づくり

1-2

快適で豊かに暮らせる
地域生活圏の形成を目指す関西
～どこでも豊かに暮らせる関西～

4 都市の魅力向上プロジェクト

○関西の成長・発展を牽引し、快適で暮らしやすい都市機能・環境の再構築
○人口減少下においても持続可能なまちづくり・地域づくりを支える環境整備の推進

- 都市のコンパクト化と交通ネットワークの確保
- 安全・安心で快適な居住環境の形成
- 都市圏郊外部の再生
- 関西における高齢化への対応

5 地域活性化プロジェクト

○「地域生活圏」の形成により関西のどこに住んでも豊かな暮らしを実現
○空き家対策と所有者不明土地対策の総合的推進および建築・都市のDXの推進等による圏域管理の高質化

- 地域の課題を解決する地域生活圏の形成
- 農産漁村の持続的発展
- 地方へ人の流れの創出
- 自然や景観の維持および多面的利活用による地域の活性化
- 誰もが安心して暮らせるまちづくり
- 働く全ての人が生産的で働きがいのある仕事に就くとともに、安全・安心な労働環境の促進

2. 安全・安心な圏域づくり

2-1

巨大災害リスクに対して持続可能な
国土・社会を目指す関西
～災害に屈しない強靱な関西～

6 関西強靱化・
防災連携プロジェクト

○災害から人々の生命、身体、財産を守り、社会経済活動を継続させるためには、「国土の基盤となるインフラのネット（道路、河川、港湾、都市など）」の整備を基本としつつ、地域住民や災害対応機関の「ヒトのネット」、災害支援に必要な物資（＝「モノ」）、企業が経済活動を継続できる仕組み（＝「カネ」）、災害対応に必要な「情報」の「モノ・カネ・情報のネット」を強化する必要がある
○これらのネットを総称して、人々を災害から守るという意味も込めて、「関西防災セーフティネット」と位置付け、地域力を結集・発揮しながら、ハード・ソフト一体の諸施策を行うことで、強化を図る

- | | |
|----------------------|--------------------|
| ■洪水・内水・高潮・土砂災害対策 | ■地震・津波対策 |
| ■災害時における交通機能の確保 | ■安全な農山漁村の実現 |
| ■戦略的メンテナンスの実施 | ■地域防災力の向上 |
| ■広域連携体制の整備 | ■エネルギー・産業の強靱化 |
| ■新技術・デジタルを活用した防災力の強化 | ■首都圏の有する諸機能のバックアップ |

将来像と目標

広域連携プロジェクト

■施策群

2. 安全・安心な圏域づくり

2-2

人と自然が共生する持続可能な関西
～カーボンニュートラル
・SDGsを実現する関西～

7 GXプロジェクト

○官民連携による地域づくり、再エネポテンシャルの有効活用によるカーボンニュートラルの実現、脱炭素の基盤となる新たな産業・技術の強化や、水素・燃料アンモニア等の供給体制の整備に向け、カーボンニュートラルポートの形成、水素サプライチェーン構想等の推進を図る

- 再エネの導入促進、活用拡大と分散型エネルギーシステムの構築
- 循環型社会の形成や徹底したエネルギー効率の向上による環境への配慮
- 地球温暖化の緩和と適応に向けた取組など、地球環境問題への対応
- 大気環境の保全、土壌汚染対策の推進等
- エネルギーの効率的かつ安定的な供給及び利用のための環境整備
- 水素社会の実現に向けたインフラ整備

8 みどり共生プロジェクト

○健全な水循環の維持又は回復、生物多様性の更なる確保の実現に向け、自然環境の保全・再生推進の取り組み、グリーンインフラの社会実装による持続可能なまちづくり構築を推進し、人と自然の共生を図る

- 多様で健全な森林の整備及び保全の推進と森林づくり、木材利用への理解醸成
- 健全な水環境の維持または回復の推進と海洋・海域の保全及び利活用
- 人と野生生物等の関係の適正化と生物多様性の社会への浸透
- 持続可能な国土管理による美しい景観形成や自然資源等を活用した地域産業の促進
- 30by30目標等を踏まえた自然環境の保全・再生・活用
- 都市環境の質的向上

3. 個性豊かな圏域づくり

3-1

日本の歴史・伝統・文化が集積し、
世界を魅了し続ける関西
～多様な文化
・自然の魅力がいっぱい関西～

9 世界を魅了する 関西プロジェクト

○2025大阪・関西万博を好機と捉え、特有の歴史・伝統・文化や豊富な地域資源を有する関西から、持続可能な観光、消費額拡大、地方誘客促進を推進する

- 個性豊かな地域文化の保存、継承、創造、活用等
- 地域の個性を活かした魅力ある景観の形成
- 国内交流の拡大
- 文化芸術やスポーツ活動への参加機会等の充実
- 地域の文化芸術を支える環境整備
- 新しい日本文化の創造・発信
- 持続可能な観光地域づくり
- 他圏域との交流連携を含む広域観光の推進
- 消費額拡大・地方誘客促進を重視したインバウンドの推進

圏域の将来像とその実現に向けた目標(1-1)

将来像と目標

1. 活力ある圏域づくり

1-1

日本中央回廊の西の拠点として我が国の成長を牽引する関西
～挑戦し、成長する関西～

(圏域の将来像)

- 三大都市圏を結ぶ日本中央回廊の西の拠点として、アジアを中心に世界からヒト・モノ・カネ・情報を呼び込むゲートウェイとなるシームレスで重層的な生活・経済圏域を形成した圏域
- 医療・ライフサイエンス等の分野やグローバルニッチ企業等の特色あるものづくりの伝統を活かし、さらに大阪・関西万博のレガシーの承継・発展により、我が国の成長エンジンとなる圏域
- 大学、研究機関、知的交流拠点等の集積・連携を活かし、研究、人材及び資金の融合化を図り、他にはないユニークな拠点として人材、知識、情報が集まり、イノベーションを創出し続ける圏域
- 日本海・太平洋の2面活用に加え、瀬戸内海を介した西日本の圏域との連携の利点を活かし、国土の均衡ある発展や地域経済の活性化を実現する圏域

(その実現に向けた目標・戦略)

三大都市圏が一体化した新たな交流圏域の形成や、中核となる都市の再生による地方活性化、国際競争力強化を図るため、関西の強み（産業等の集積、最先端の技術力・人材等）や地域特性（日本海・太平洋の2面活用等）を活かし、以下の目標について戦略的に取り組む

- ①リニア中央新幹線や高規格道路ネットワークの形成により三大都市圏を結び、1つの都市圏として世界に類を見ない魅力的な経済集積圏となる日本中央回廊のインパクトにより、アジアを中心に世界からヒト・モノ・カネ・情報を呼び込み、それらを圏域内はもとより他圏域や地方経済へと拡大・波及させるため、北陸新幹線、関西3空港の中軸となる関西国際空港、阪神港など陸海空の総合交通体系の高質化により、シームレスな拠点連結型国土を形成し国際競争力の強化を実現する
また、これらにより人流・物流が多重的に確保され、三大都市圏相互の更なる機能補完・連携の強化を実現し、東京に集中する中枢管理機能のバックアップ体制の強化にも寄与する
- ②産学官が一体となった連携体制を構築し、大学・企業と連携したスタートアップ支援や、先端的な科学技術を支える基盤の強化、イノベーション創出の中心となる知的対流拠点の強化により、最先端医療技術を始めとする健康・医療分野や、情報通信、バイオ、環境・エネルギー分野、文化・伝統産業等、成長エンジンとなり将来の関西を牽引する新たな産業の創出・強化し、関西の活力を高める
- ③我が国の成長産業やイノベーションの創出を支える多様な人材を確保・育成するとともに、新たなことに挑戦する環境整備を推進することにより、世界をリードする魅力ある成長産業の形成を推進する
- ④「デジタル田園都市国家構想」の実現に向けデジタルインフラ整備を推進するとともに、デジタル技術等を活用した新たなモビリティの導入、農林水産業の成長産業化の促進に向けた取組等により、地域経済の活性化・稼ぐ力の向上により豊かで活力のある地域社会を構築する

圏域の将来像とその実現に向けた目標(1-2)

将来像と目標

1. 活力ある圏域づくり

1-2

快適で豊かに暮らせる地域生活圏の形成を目指す関西
～どこでも豊かに暮らせる関西～

(圏域の将来像)

- デジタルの徹底活用と広域連携、官民連携の推進により、関西のどこに住んでも教育、医療、福祉、文化、スポーツ等の豊かな暮らしを実現できる「地域生活圏」を形成する圏域
- 都市と豊かな自然や安らぎを提供する里山・里海が近接している関西の特徴を活かし、テレワーク等を活用した転職なき移住や二地域居住など新たなライフスタイルを実現しやすい圏域
- 生活や働き方の視点を変え真の豊かさを実現する「ワークinライフ」を全国に先駆けて実現する圏域
- 京阪神都市圏や地方都市、農山漁村等の様々な地域を有する多様性を活かして関係人口を多数生み出し、都市部と地方部が相互に連携して発展する圏域
- 就学、労働、出産、子育て、趣味等ライフサイクルの様々なシーンにおける魅力があり誰もが暮らしやすい圏域

(その実現に向けた目標)

- 京阪神都市圏から地方の中小都市、生活に身近な地域コミュニティに至るまでデジタルとリアルのハイブリッド活用や地域間の連携・補完、民の力を最大限に活用する
 - 関西のどこに住んでも快適で豊かに暮らせるように、コンパクト・プラス・ネットワークの考え方を踏まえた重層的でシームレスな地域生活圏の形成を目指す
 - 地域公共交通としての自動運転や、スーパーシティなどの地域ビジョンの実現に向けた取組を推進させることで、持続可能な地域づくりを目指す
- これらを実現させるため、以下の目標について戦略的に取り組む

圏域の将来像とその実現に向けた目標(1-2)

将来像と目標

1. 活力ある圏域づくり

1-2

快適で豊かに暮らせる地域生活圏の形成を目指す関西
～どこでも豊かに暮らせる関西～

- ① 関西の成長・発展を牽引するために、関西が有する多核的な都市構造を活かし、少子高齢化が進行する地域においても持続可能な生活圏を形成するとともに、関西圏におけるS A F 燃料製造などの持続可能な産業への転換による国際競争力の強化、既存ニュータウンなどの郊外部の再生および高齢化社会への対応を行うとともに、質の高い地域公共交通やデジタルの徹底活用により、シームレスに繋がらう国土構造の構築を目指す
- ② 地方の中心都市においては、人口減少下においても持続可能なまちづくり・地域づくりを支えるため、農林水産業の振興、都市と農山漁村の共生を図るとともに、官民連携によるデジタルを活用した生活サービスや地域公共交通を構築することで、府県界、および市町村界に捉われない地域生活圏の形成を目指す。あわせて、地方の集落においては、地域公共交通の再構築やドローンなどの先端技術を活用することで必要な生活サービスを維持・確保する。これらにより、地方において、域外からの所得を稼ぐと共に、域内での産業の裾野を広げるなどの取組を通じて、関西のあらゆる地域でも、新しい資本主義の実現を目指す
- ③ 危険な空き家を除却するとともに、新たなライフスタイルや居住ニーズに適合する空き家を活用するとともに、所有者不明土地対策の総合的推進や、オープンな3D都市モデルであるプラトールなどの建築・都市のDXの推進等による、防災・減災および都市計画等への活用などの圏域管理を高質化することにより、地域経済やコミュニティの活性化を図ることで、都市の防災力や安全性を高めるとともに、地域価値の向上を図る地域空間を形成する
- ④ 関西が持つ健康・医療の強みを活かすことや、居心地が良く、集い、歩きたくなる空間を創出すること、あわせて少子高齢化に対応した社会システムを構築することなどにより、高齢者の居住の安定の確保、地域住民の健康の維持・増進、多様な世代の交流の促進、地域コミュニティ活動の活性化等を図るとともに、良質な住宅ストックの形成による住生活における質の向上および暮らしの安全・安心の確保を図る
- ⑤ 地域の祭りなどのイベントへの参加や旅行などをきっかけとして、地域と多様に関わる関係人口を拡大することにより、中山間地域と都市との共生・対流を促進するとともに、こうした機会を契機とした移住・定住の促進により持続可能な地域社会を構築する
- ⑥ 誰もが安心して働き、活躍できる関西を実現することにより、安心して子どもを産み育て、女性をはじめ、若者、高齢者、障がい者、外国人等の多様な人材が地域づくりに参加することで地域の活力を向上するほか、テレワークや二地域居住なども活用し、人生の各段階に応じて、仕事と生活の調和を図り、多様な生き方を選択・実現できる「ワーク in ライフ」を推進し、誰もが生きがいを持てる包摂的な社会を実現する

圏域の将来像とその実現に向けた目標(2-1)

将来像と目標

2. 安全・安心な圏域づくり

2-1

巨大災害リスクに対して持続可能な
国土・社会を目指す関西
～災害に屈しない強靱な関西～

(圏域の将来像)

- ◎人々の生命・身体・財産を守り、災害時にも社会経済活動を持続する圏域
 - 南海トラフ地震・津波や上町断層帯を始めとする活断層に起因する地震等の巨大災害への備えや、気候変動に伴い頻発化・激甚化する風水害・高潮・雪害・土砂災害等に対応する総合的な防災力の高い圏域
 - 平時から防災・減災に対する高い意識を官民が共有し、新技術・デジタルの活用や官民連携手法を導入したハード・ソフトの施策を組み合わせた「多重防御」による災害への備えや被災経験の継承等を実践する圏域
 - 災害時においても企業等の経済活動が継続される圏域
 - 日本中央回廊の西の拠点、かつ関西が国内第二の経済圏として企業の集積、交通・物流インフラを含む都市機能の集積、及び豊富な人的リソースを備えていることを踏まえ、東京一極に集中する政府機能を始めとする中枢管理機能など、諸機能のバックアップを担い得る圏域

(その実現に向けた目標)

人々の生命・身体・財産を守り、災害時にも社会経済活動を持続させるため、関西が直面する南海トラフ地震・津波等の巨大災害リスクや気候変動に伴い頻発化・激甚化する風水害リスク、社会資本の老朽化の加速等に対応する。新技術・デジタルの活用を図りながら、多様な主体の連携・協力により、地域力を発揮しながら人々の安全・安心、暮らしや経済を守るため、以下の目標について戦略的に取り組む

- ①府県あるいは圏域を超えた広域的な防災体制の確保やハード・ソフト一体となった流域治水を始めとする総合的な防災・減災対策の推進により、住民の命と暮らしを守る
- ②社会資本の老朽化対策の推進等により強靱な国土を構築する
- ③地域の特性や住民一人一人の多様性を踏まえた、地域関係者の連携等により地域防災力を強化することにより、安全性を高め、安心して暮らせる地域を形成する
- ④府県あるいは圏域を超えた広域的な防災体制の確保により、機動的な災害支援を行う
- ⑤災害時の企業のサプライチェーンの確保、エネルギーの供給拠点の分散立地により災害時において企業等の経済活動を継続する
- ⑥情報通信ネットワークの強靱化や災害情報を収集・共有・発信するシステム整備の促進等による災害対応力の高度化を図ることにより、効率的かつ効果的な防災力の強化を行う
- ⑦官民による平時からの首都圏とのデュアルオペレーション体制の構築を促進することにより、大規模災害時等においても中枢管理機能等の諸機能を適切に維持・確保する

圏域の将来像とその実現に向けた目標(2-2)

将来像と目標

2. 安全・安心な圏域づくり

2-2

人と自然が共生する持続可能な関西
～カーボンニュートラル・SDGsを実現
する関西～

(圏域の将来像)

- 持続可能な産業への構造転換及び食料システムの構築や、再エネの最大限の導入、市町村におけるゼロカーボン表明、市民生活における温室効果ガス排出抑制など、2050年カーボンニュートラルの実現に向けてあらゆる主体が総力を挙げて取り組む圏域
- 四季折々の恵み豊かな自然環境の保全・再生、地域の個性を生かした魅力ある景観形成を含む都市環境の改善・保全などの環境対策に圏域全体で取り組む、グリーン国土の創造に資する環境先進圏域
- 健全な水循環の維持・回復、水文化の継承・再生・創出、多様な生態系の保全・再生に取り組み、また地域特性等に応じて最適な規模の資源循環を形成し、循環型社会を実現する圏域
- SDGsの達成に向けて、行政、企業、市民などあらゆる主体が分野を横断して積極的に取り組む圏域

(その実現に向けた目標)

都市と豊かな自然や安らぎを提供する里山・里海が近接するなど、人と自然のつながりが深い関西の特徴を活かし、あらゆる主体が連携して、人と自然の共生、カーボンニュートラル・SDGsの実現等を図るため、以下の目標について戦略的に取り組む

- ①官民連携による地域づくりやインフラ等における再エネポテンシャルの有効活用を推進することにより、カーボンニュートラルに向けた都市・地域づくりを実現する
- ②脱炭素の基盤となる新たな産業・技術（水素・蓄電池等）を強化することや、水素・燃料アンモニア等の供給体制の整備を推進することにより、エネルギーの効率的かつ安定的な供給・利用を実現する
- ③豊かで美しく親しみやすい自然環境の保全・創出と生物多様性の確保により、自然がもたらす恵沢を将来にわたり享受できる自然と共生する社会を実現する
- ④行政、企業、NPO等が連携してグリーンインフラの社会実装を推進することにより、豊かさを実感でき、持続可能で魅力ある地域づくりを進める
- ⑤自然や緑を活かした都市環境の改善により、環境負荷の少ない都市構造を形成する

圏域の将来像とその実現に向けた目標(3-1)

将来像と目標

3. 個性豊かな圏域づくり

3-1

日本の歴史・伝統・文化が集積し、世界を魅了し続ける関西
～多様な文化・自然の魅力がいっぱい
関西～

(圏域の将来像)

- 長い歴史とそれに培われた伝統文化を有し、多くの個性的な地域と豊かな自然など、関西特有の歴史・伝統・文化や豊富な地域資源を次世代に継承する圏域
- 世界に誇る歴史・文化資産をはじめ、暮らしに息づく伝統・生活文化、四季折々の自然や身近な水辺空間、多彩な食文化などの地域資源を活かした「住んでよし、訪れてよし」の観光地域づくりと、文化庁とも連携した日本文化の関西からの創造・発信により、世界の人々を惹きつけてやまない圏域
- 世界からの来訪者を含むすべての人々が、快適かつ便利に関西各地を移動・滞在し、その地域の魅力を存分に味わうことができる圏域

(その実現に向けた目標・戦略)

世界に誇る歴史・伝統・文化をはじめ、個性的で多様な地域からなる関西の魅力に更に磨きをかけ、次世代に継承していくとともに、世界の人々が訪れ、魅了し続ける圏域となるため、以下の目標について戦略的に取り組む

- ①関西特有の歴史・伝統・文化の継承・利活用や地域資源、文化芸術の活用による観光振興及び地域活性化を推進する
- ②安全安心で快適な地域社会や交通環境など、地域住民の生活や地域の文化、自然の保全と両立した持続可能な観光地域づくりを推進する
- ③人流や車両の移動等に関するビックデータ等、デジタル技術等の活用による観光DXを推進するとともに、観光需要に対応する人材の確保・育成を図ることにより、外国人旅行者の宿泊需要に弾力的に対応し、年間を通して宿泊施設の十分な供給を図るとともに、外国人旅行者の多様な滞在ニーズに応える
- ④関西一円に点在する歴史・伝統に由来する文化資源や豊富な地域資源など地域のコンテンツの充実や魅力の向上等を図り、また、大阪・関西万博等の大型イベントを戦略的に活用して、他圏域との交流連携を含む広域観光を推進する
- ⑤観光立国推進に向けて、大阪・関西万博等の大型イベントを戦略的に活用し、世界に誇る歴史・伝統・文化を有する関西からインバウンドを拡大し、消費額拡大・地方誘客促進を推進する

日本回廊ネットワークプロジェクト

【目的・コンセプト】

- 日本中央回廊の西の拠点として、アジアを中心に世界からヒト・モノ・カネ・情報を呼び込むゲートウェイとしての機能を強化する
- その効果を圏域内はもとより他圏域や地方経済へと波及・拡大させるため、陸海空の総合交通体系の高質化により、シームレスな拠点連結型国土を形成する

国際交通拠点の競争力強化

主要国際空港や主要地方空港の機能強化

国際コンテナ戦略港湾や国際バルク戦略港湾の機能強化

全国各地とアジアとの交流拡大

港湾・空港の有効活用、道路、鉄道等のアクセス網の充実を通じたゲートウェイの形成

シームレスな拠点連結型国土の骨格を支える国内幹線交通体系の高質化

高規格道路ネットワークの高質化

幹線鉄道ネットワーク等の高質化

海上輸送ネットワークの高質化

航空輸送ネットワークの高質化

関西交通ネットワークプロジェクト

【目的・コンセプト】

- 日本海・太平洋の2面活用や、瀬戸内海を介した西日本との連携を支える高規格道路・幹線鉄道・海上輸送等のネットワークの形成や機能を強化する
- 地域の活性化や暮らしを支援する地域における交通体系を構築する

シームレスな総合交通体系の形成(交通・物流ネットワークの強靱化)

高規格道路ネットワークの形成・機能強化
(高規格道路のミッシングリンクの解消や暫定2車線区間の4車線化等)

幹線鉄道ネットワーク等の形成・機能強化
(鉄道の主要駅や高架橋等の耐震対策、輸送障害に強い貨物鉄道ネットワークの構築)

海上輸送ネットワークの形成・機能強化
(港湾の耐震強化岸壁整備)

航空輸送ネットワークの形成・機能強化
(空港の滑走路等の耐震対策)

地域交通体系の構築

地域における総合的な交通政策の推進

地域の活性化を支援する交通体系の整備

いのちと暮らしを支える交通環境の形成

関西成長エンジンプロジェクト（1）

【目的・コンセプト】

- 産官学の連携体制により、イノベーション創出の中心となる知的対流拠点の強化や、スタートアップ支援、多様な人材の確保・育成等により、将来の関西を牽引する産業や、魅力ある新たな成長産業の形成を推進する
- デジタル技術等を活用した新たなモビリティの導入、農林水産業の成長産業化の促進等により、地域経済の活性化・稼ぐ力を向上する

大都市圏の国際競争力の強化

海外から企業や高度人材の呼び込みに向けた大都市のリノベーション

GX・DX を始めとする産業の国際競争力の強化とイノベーションを支える環境整備、科学技術を支える基盤の強化と人材の育成

イノベーションやベンチャーを創出する環境の整備

世界をリードする魅力ある成長産業の形成推進

海外からの投資を呼び込む環境整備

世界トップクラスの事業環境の整備による、国際的な立地競争力の強化

関西成長エンジンプロジェクト（2）

食料等の安定供給と農林水産業の成長産業化

食料の安定供給と食料安全保障の確立

農業・食品産業の成長産業化の促進

森林・林業・木材産業によるグリーン成長

水産資源の適切な管理と水産業の成長産業化

デジタルを活用した新たなモビリティの充実

新たなモビリティの実用化に向けた取り組みの推進

デジタルインフラの整備・運用

光ファイバ、5G、データセンター、海底ケーブル等のデジタルインフラの整備

ICT・データ利活用の促進

データの相互連携・分野横断による利活用の促進

情報通信社会の安全・安心の確保

サイバー事案への対応の増強

都市の魅力向上プロジェクト

【目的・コンセプト】

- 関西の成長・発展を牽引し、快適で暮らしやすい都市機能・環境の再構築
- 人口減少下においても持続可能なまちづくり・地域づくりを支える環境整備の推進

都市のコンパクト化と交通ネットワークの確保

居住や都市機能の誘導を進める都市のコンパクト化と公共交通網の再構築

「居心地が良く歩きたくなる」まちなかづくり

未利用地活用による市街地空洞化抑制

建築BIM、PLATEAU、不動産IDの一体化などによる建築・都市のDXの推進

安全・安心で快適な居住環境の形成

良質なストックの形成や住宅循環システムの構築

住宅市場の環境整備

住宅セーフティネットの機能の充実

安全・安心の確保とユニバーサルデザインの理念に基づく取組の推進

空き家の発生抑制、活用促進等による増加する空き家への対応

マンションの長寿命化の促進と再生の円滑化

良好な景観の形成と水・緑豊かな環境の整備

都市圏郊外部の再生

既存ニュータウンの活性化の取組

関西における高齢化への対応

高齢者が生きがいを持って長く健康に暮らせるまちづくり

人材不足に対するICT、ロボット、遠隔医療等の新たな技術やサービスの普及

地域活性化プロジェクト（1）

【目的・コンセプト】

- 「地域生活圏」の形成により関西のどこに住んでも豊かな暮らしを実現
- 空き家対策と所有者不明土地対策の総合的推進および建築・都市のDXの推進等による圏域管理の高質化

地域の課題を解決する地域生活圏の形成

デジタル田園都市国家構想総合戦略が掲げる地域ビジョンの実現に向けた取組との密接な連携

連携中枢都市圏、定住自立圏と連携した地域生活圏の形成

農山漁村の持続的発展

地域特性を活かした複合経営

農山漁村発イノベーションの推進

農村RMOの形成支援

中山間地域等を始めとする農山漁村に人が住み続けるための条件整備

「デジ活」中山間地域の取組推進

水産業を支える漁村の活性化の推進

最適な土地利用構想

粗放的土地利用等の農用地保全の総合的支援

地域での話し合いにより目指すべき将来の農地利用の姿を明確化する「地域計画」の策定

農地中間管理機構を活用した農地の集積・集約化

必要に応じ粗放的な利用等による、計画的な土地利用を推進

地域コミュニティによる農地、農業用水、農道等の地域資源の基礎的な保全活動や質的向上を図る活動を支援

中山間地域等の条件不利地域では、粗放の利用も含めた最適な土地利用を推進

化学肥料・化学農薬の低減や有機農業の拡大など、生物多様性保全を重視した持続可能な農林水産業の実現に向けた取組を推進

古民家の保全及び再生による地域外からの資金の獲得、地域内の経済循環等を通じた地域の活性化
体験農園、農泊等をきっかけとした地域人材の裾野拡大

地域活性化プロジェクト（2）

地方へ人の流れの創出

サービス産業等の地域消費型産業について、付加価値生産性の向上に向けた取組の推進

地域資源が持つ価値を地域の創意工夫により最大限に引き出す取組の推進

テレワーク等の活用による、地域の労働供給力の向上

地域の実情に応じた雇用創出の取組の支援

東京一極滞留の解消に向けた、転職なき移住等の推進、地方創生テレワーク

空き家活用等の二地域居住等環境整備や官民連携協議会を通じた普及促進

自然や景観の維持および多面的利活用による地域の活性化

地域資源を活用し、豊かで活力ある地域づくりを促進

誰もが安心して暮らせるまちづくり

夫婦ともに仕事と子育てを両立でき、安心して出産、子育てができる環境整備

多様な世代が安心して健康に暮らせる医療・福祉・介護とまちづくりの推進

コミュニティによる暮らしの安全・安心の確保

働く全ての人が生産的で働きがいのある仕事に就くとともに、安全・安心な労働環境の促進

女性、高齢者含め誰もがいきいきと活躍できる取組の支援

関西強靱化・防災連携プロジェクト（1）

【目的・コンセプト】

- 災害から人々の生命、身体、財産を守り、社会経済活動を持続させるためには、「国土の基盤となるインフラのネット（道路、河川、港湾、都市など）」の整備を基本としつつ、地域住民や災害対応機関の「ヒトのネット」、災害支援に必要な物資（＝「モノ」）、企業が経済活動を継続できる仕組み（＝「カネ」）災害対応に必要な「情報」の「モノ・カネ・情報のネット」を強化する必要がある
- これらのネットを総称して、人々を災害から守るという意味も込めて、「関西防災セーフティネット」と位置付け、地域力を結集・発揮しながら、ハード・ソフト一体の諸施策を行うことで、強化を図る

洪水・内水・高潮・土砂災害対策

気候変動を踏まえた計画の見直し

河川堤防・防潮堤・護岸・河道掘削・堤防強化・遊水地・水門等の整備

水門等の自動化、遠隔化等の推進

下水道施設や雨水貯留浸透施設の整備

グリーンインフラの治水利用

ダム整備・ダム再生・既設ダムの治水活用の推進

総合的な土砂災害対策の推進

森林整備等を含めた流域流木対策

水害リスクマップの作成

マイタイムライン(風水害)の作成

規制区域の指定促進

立地誘導

高台まちづくり

盛土対策

地震・津波対策

インフラ施設の耐震化

インフラ施設の液状化対策

住宅・建築物及び密集市街地の耐災害性向上

帰宅困難者対策

津波避難施設の整備

防波堤・岸壁・海岸施設の整備

水門等の自動化、遠隔化等の推進

津波ハザードマップの作成

関西強靱化・防災連携プロジェクト（2）

災害時における交通機能の確保

高規格道路のミッシングリンク解消や4車線化

重要物流道路の整備（無電柱化を含む）

道路の多重性の確保

輸送障害に強い貨物鉄道ネットワークの構築

整備新幹線、リニア中央新幹線等の幹線鉄道ネットワークの整備

支援物資輸送拠点等として活用する「命のみなとネットワーク」形成

空港の整備

安全な農山漁村の実現

農林水産業に係る生産基盤等の災害対応力強化

戦略的メンテナンスの実施

予防保全型メンテナンスへの本格転換

広域的・戦略的なマネジメント

新技術・官民連携手法の普及によるメンテナンスの高度化・効率化

集約・再編等によるインフラストックの適正化

多様な主体の連携・協力によるメンテナンス体制の構築

地域防災力の向上

ハザードマップの配布等による災害リスク情報の事前共有

防災教育や避難訓練の実施

消防団・自主防災組織・ボランティアの育成・充実

地区防災計画制度の普及・啓発

公園、道の駅等の防災拠点の整備

マイタイムラインの作成

地籍調査の計画的な実施

復興まちづくりのための事前準備

関西強靱化・防災連携プロジェクト（3）

広域連携体制の整備

相互応援協定の締結等の体制整備

広域防災拠点の機能強化

TEC-FORCE、警察、消防、自衛隊、海上保安庁等による災害時の応急体制の強化

交通マネジメント

エネルギー・産業の強靱化

災害時の企業のサプライチェーンの確保

自立分散型エネルギーの導入、電源の地域分散化

新技術・デジタルを活用した防災力の強化

情報通信ネットワークの強靱化

予測の高度化

災害情報を収集するシステムの整備

災害情報を共有するシステム整備及び利用促進

施工の自動化など新技術を活用した災害対応・復旧復興

首都圏の有する諸機能のバックアップ

首都圏における大規模災害に備えた平時からの政府機関・本社等のバックアップ機能を関西で確保

日本中央回廊の形成により、人流・物流の多重性を首都圏と確保

G Xプロジェクト（1）

【目的・コンセプト】

- 官民連携による地域づくり、再エネポテンシャルの有効活用によるカーボンニュートラルの実現、脱炭素の基盤となる新たな産業・技術の強化や、水素・燃料アンモニア等の供給体制の整備に向け、カーボンニュートラルポートの形成、水素サプライチェーン構想等の推進を図る

再エネの導入促進、活用拡大と分散型エネルギーシステムの構築

地域資源を活用した再エネの導入促進

地熱、水力、バイオマス、太陽光、風力等の再エネの最大限の導入拡大

循環型社会の形成や徹底したエネルギー効率の向上による環境への配慮

業務・家庭、運輸、産業の各部門における省エネの推進

化石燃料の効率的な利用や脱炭素化に向けた取組の推進

地域が主体となって、地域資源を最大限活用しながら、地域内外の多様な主体と協働して環境・社会・経済課題を同時に解決していく「地域循環共生圏」の取組を推進

廃棄物処理施設の創エネ化、省エネ化を推進

建設リサイクル分野においては、建設発生土の更なる有効利用と適正処理を促進

G Xプロジェクト（2）

地球温暖化の緩和と適応に向けた取組など、地球環境問題への対応

2050年カーボンニュートラル、2030年度の温室効果ガス46%削減に向けて、地球温暖化対策計画に基づき、徹底した省エネの推進、再エネの最大限の導入、ライフスタイルの変革など、あらゆる分野で取組を推進

脱炭素化に配慮した港湾機能の高度化や水素等の受入環境の整備

エリートツリー等を活用した再造林等による森林吸収源対策の推進

ブルーカーボン生態系の保全・再生・創出を推進

気候変動及び多様な分野における気候変動影響の観測、監視、予測及び評価並びにこれらの調査研究を推進

気候変動予測等に関する科学的知見を整備

観測・監視技術や予測・評価技術の高精度化、効果的な適応技術の開発等を推進

各主体の気候変動影響に対する理解と気候変動適応の取組の促進、適応策の実施の支援

大気環境の保全、土壌汚染対策の推進等

環境的に持続可能な交通システムを実現

エネルギーの効率的かつ安定的な供給及び利用のための環境整備

エネルギー源ごとの特徴を踏まえた、安定供給、低コスト、環境適合等のバランスの良い供給構造の実現に向けたインフラ整備の推進

水素社会の実現に向けた大規模な体制整備

再エネの低コスト化、高効率化等の研究開発を推進

再エネ導入拡大等に向けて電力ネットワークを次世代化していくため、広域連系システムのマスタープランに沿った取組推進

水素社会の実現に向けたインフラ整備

水素社会の実現に向けた長期的かつ総合的なロードマップに基づく技術開発等の推進

みどり共生プロジェクト（1）

【目的・コンセプト】

- 健全な水循環の維持又は回復、生物多様性の更なる確保の実現に向け、自然環境の保全・再生推進の取り組み、グリーンインフラの社会実装による持続可能なまちづくり構築を推進し、人と自然の共生を図る

多様で健全な森林の整備及び保全の推進と森林づくり、木材利用への理解醸成

森林経営計画や森林経営管理制度に基づく経営管理権集積計画の作成等による森林の経営管理の集積・集約化

立地条件が悪い森林等においては、公的な関与による整備及び保全を推進

森林整備の担い手について労働環境の改善や労働安全対策の強化等の取組を推進

保安林の適切な指定及び管理、治山施設の整備等を推進

荒廃山地や荒廃危険山地の復旧整備、海岸防災林の整備等を推進

森林整備と一体となった防護柵等の被害防止施設の整備、新たな防除技術の開発

花粉症対策として、スギ人工林等の伐採・利用、花粉の少ない苗木への植替え等を推進

企業・NPO等のネットワーク化、全国植樹祭等の緑化行事の開催を通じた普及啓発活動の促進

民間投資や「緑の募金」による森林づくりを後押し

「森の国づくり」を目指し、木材利用を推進

国産材の需要拡大につなげる「木づかい運動」を展開

みどり共生プロジェクト（2）

健全な水循環の維持又は回復の推進と海洋・海域の保全及び利活用

地方公共団体等の地域の関係者が主体となり、連携して地下水マネジメントに取り組む

保安林の指定やその適切な管理を推進

都市においてはグリーンインフラとして緑地等の保全及び創出を図る

霞堤の保全等による貯留機能を有する土地の保全、「田んぼダム」、ため池の活用

適切な土砂を下流に流すことのできる透過型砂防堰堤等の整備を推進

ダム貯水池への土砂流入の抑制や土砂を適正に流下させる取組を関係機関と連携し推進

適切な土砂管理を行うための土砂移動に関するデータの収集及び分析や有効な土砂管理を実現する技術の検討及び評価

人と野生生物等の関係の適正化と生物多様性の社会への浸透

絶滅危惧種の保全を全国的に推進

将来の鳥獣捕獲の担い手の育成・確保

外来種の侵入の未然防止や侵入先での防除

多くの人が自然とふれあい、我が国の自然の豊かさを実感できる機会を提供

自然資本の価値の可視化を推進

みどり共生プロジェクト（3）

持続可能な国土管理による美しい景観形成や自然資源等を活用した地域産業の促進

持続可能な農林水産業の推進

自然資源等を活用した地域産業の促進

農地、森林等の適切な保全及び整備等
持続可能な国土管理に向けた努力を続ける

30by30目標等を踏まえた自然環境の保全・再生・活用

自然・田園環境再生

国立公園等の保護地域の拡張と管理の質の向上及びOECMの設定・管理を検討推進

健全な生態系を活かして、気候変動や自然災害等の多様な社会課題の解決につなげる
「自然を活用した解決策(NbS)」の取組を推進

広域的な生態系ネットワークの基軸である森・里・まち・川・海のつながりを確保

分野横断・官民連携によるグリーンインフラの社会実装を推進

自然的土地利用の転換に向けた考え方や手法について検討

都市環境の質的向上

水と緑のネットワーク、地域のエネルギー資源の徹底活用

世界を魅了する関西プロジェクト（1）

【目的・コンセプト】

- 2025大阪・関西万博を好機と捉え、特有の歴史・伝統・文化や豊富な地域資源を有する関西から、持続可能な観光、消費額拡大、地方誘客促進を推進する

個性豊かな地域文化の保存、継承、創造、活用等

地域文化の保存、継承、振興と地域の活性化の好循環を創出するため、文化観光を推進

地域の個性を活かした魅力ある景観の形成

良好な都市環境や美しく暮らしやすい農山漁村の形成を推進

国内交流の拡大

地域資源を活用した第2のふるさとづくりの推進

文化芸術やスポーツ活動への参加機会等の充実

地域における次代の文化芸術の担い手の確保・育成

スポーツ・文化芸術活動の機会を確保

地域の文化芸術を支える環境整備

地域文化振興に向けた機能強化や振興拠点の整備

世界を魅了する関西プロジェクト（2）

新しい日本文化の創造・発信

官民連携による海外向けコンテンツ制作や情報発信、人材育成の推進

デジタルを活用した全国で文化芸術を楽しむことができる環境の確保

持続可能な観光地域づくり

施設改修や観光DX等の取組による観光地・観光産業の再生・高付加価値化

観光地における過度の混雑等の防止・旅行の質の向上

観光需要に対応する地域交通の確保

他圏域との交流連携を含む広域観光の推進

他圏域との交流連携を含む広域観光の推進

消費額拡大・地方誘客促進を重視したインバウンドの推進

インバウンドの本格的な回復に向けた集中的取組

○広域連携プロジェクトを効果的かつ効率的に遂行するため、以下の5点について取り組むものとする。

・重点的・選択的な資源投入

選択と集中を徹底し、投資の効率化を図る

各地域の個性を活かした自主性のある構想で、かつ中長期的な目指す姿を踏まえた時間軸と空間軸を有する地域づくりの取組に重点をおいて支援を行う

・多様な主体の参加と連携・協働

地域づくりを担う多様な主体との協働・連携にも留意する

多様な連携・協働の形態の中から最も適切かつ効果的な体制を選択できるよう留意する

・隣接圏域との連携

円滑な進捗が図られるよう、圏域間での連絡・調整・意見交換を行う会議を定期的を開催する等により、効果・効率的に計画期間内での連携施策を進めていく

・他の計画・施策との連携

国土利用に関する計画、各府県の総合計画や国土強靱化地域計画を始めとする各種計画との整合を図っていく

・計画の進捗状況の把握

プロジェクトごとに担当を定め、本計画のモニタリングを適切に行いより一層の推進を図る